

3 産地からのホットニュース、トピックス

りんごの新しい健康効果発見

～ 1日2個で医者いらず～

りんごがおいしい時期となっている。

このほど、独立行政法人の農業技術研究機構果樹研究所は、りんごの新しい効用を確認した旨の研究成果を発表した。

それによると、毎日りんごを食べると肥満や動脈硬化のもととなる中性脂肪値が低下。また血液中のビタミンCの含有量については、りんごを食べる前に比べ増加し、摂取を中止すると減少することがわかった。

りんごにはビタミンCは少ないが、ビタミンCを効率よく体内に取り込む成分が含まれていると考えられる。また、整腸作用のあるビフィズス菌の割合も増加し良いことづくしである。

日本人の果物消費量は1日当たり129gで先進諸国の半分程度。そこで同研究所では「りんごの摂取は腸内細菌叢が改善され、生活習慣病を予防、健康増進に役立つと説明している。



増加する輸入生鮮野菜（パート ）

～ 輸出大国化をとげる中国の動向～

(1) あらまし

昨2000年（平成12年）における生鮮野菜の輸入量は6%増の92万トンで過去最高を記録した。また冷凍、塩蔵、乾燥などを含む野菜全体の輸入量も前年比3%増の281万トン。

とくに中国生鮮野菜は前年比114%増の363,216トン。韓国は108%増の30,801トンなど、アジア諸国からの急増が目立っている。

なぜ輸入野菜が増えるのか。一般的には平成10年の国産野菜の高値をきっかけに急増した輸入野菜が、コスト削減と安値戦略が不可欠だったスーパーや外食企業などに定着していること。これはその後国産野菜の安値が続いたにもかかわらず、輸入野菜の勢いが衰えなかったことでも証明される。そして現状は安定化、恒常化、高品質化、低価格化戦略の路線を走っている。

そこで激増する中国及び韓国にスポットをあてて構造と方向を見極めることとする。
データは農水省を参考に引用

(2) 中国の輸出戦略

基本方針

昨年10月の党第15期中央委員会第5回全体会議で採択された「第10次国民経済・社会発展5ヵ年計画の策定に関する中国共産党の提案」において、「野菜などの労働集約型製品、特産品の輸出を重点的に支援するとともに、ハイレベルの輸出基地を建設する」とされている。

「第10次国民経済・社会発展5ヵ年計画の策定に関する中国共産党の提案」(抜粋)

農業の対外開放を拡大し、国際競争に積極的に参加する。

我が国農業の比較優位を十分に発揮し、家畜、家きん、水産物、果物、野菜、花とその加工品など労働集約型製品、特産品、有機食品の輸出を重点的に支援し、拡大する。

品質で勝負する戦略を堅持し、輸出製品の品質向上に努め、ブランド品を育てる。新製品開発を速め、輸出構造を改善し、生産物の加工度と付加価値を高める。基礎と潜在力のある地域と企業を選んで集中的に支援し、高規格、ハイレベルの農産物輸出基地を建設する。

外貨獲得農業モデル地区の指定

農産物輸出の規模が最も大きい山東省では、近年いくつかの外貨獲得農業モデル地区を指定し、輸出指向の農業を目指している。

外貨獲得農業モデル地区(煙台地域)の概要

野菜・果実の面積は2000年で29万ha(90年の2倍)

地区内の農家収入の65%が農産物の輸出、加工に依存

野菜・果実の栽培のほか、農産加工企業の育成にも重点

(企業支援の内容: 所得税率を15%に軽減、加工品輸出の付加価値税を免除、生産のために輸入する設備、機器、建設材料の免税、通関手続の簡素化)

(3) 中国の野菜生産状況

作付状況

中国野菜の作付面積は1,335万haで日本の2.7倍であり、経済成長に伴う食生活の向上、多様化などにより野菜需要が増加している等の理由から、全体的に増加傾向にある。

地域別に見ると山東省、広東省、河南省、湖北省及び広西自治区といった上位5省で全体の4割を占めている。

中国の野菜生産面積（1999）

単位：万ha、%

	作付面積	割合
山東省	148	11
河南省	105	8
広東省	96	7
湖北省	91	7
広西自治区	82	6
上位5省	522	39
その他	814	61
合計	1,335	-
日本	50	-
中国と日本の面積比較	2.7倍	

品目別の生産動向

中国における野菜生産の主要な品目は、きゅうり、はくさい、たまねぎ、ねぎ等であり、これらの品目では過去5年間に作付面積、生産量が倍増している。

しかし、最近では人口が増加する中で、黄河流域の土壌劣化、塩害などの問題も指摘されている。

中国野菜の生産動向

単位：千ha、千トン

	1995		1999		増減率(倍)	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
きゅうり	468	8,042	1,004	15,928	2.15	1.98
はくさい	580	14,150	971	18,503	1.67	1.31
たまねぎ	266	4,629	551	11,287	2.07	2.44
ねぎ	254	8,000	530	17,244	2.09	2.16
にんにく	371	4,969	467	5,964	1.26	1.20
にんじん	108	2,477	263	4,615	2.44	1.86
野菜全体	9,515	257,200	13,347	405,300	1.40	1.58

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」、FAO「農業生産年報」

中国の施設栽培の状況

中国の施設栽培面積は、1990年には14万haであったが、現在では93万haに増加しており、日本の約1.8倍になっている。

品目としてはきゅうり、とまと等が多いが、我が国の植物検疫上、輸入できないこととなって

いる。

施設面積の推移

	1990年	1995年	2000年
中国	14.0	57.0	93.0
日本	4.7	5.1	5.4

資料：日本施設園芸協会「中国における野菜の生産・流通・加工等の動向」
農水省「園芸用ガラス室・ハウス室等の設置状況調査」

注：2000年の数字は上記調査の直近年のデータである。

施設面積は花、果樹を含む。

わが国の植物検疫上、中国から輸入禁止となっている主な野菜

きゅうり、トマト、ピーマン、スイカ、メロン、かぼちゃ、トウガラシ、なす、いんげんまめ、
ささげ、サツマイモ

輸入禁止の原因病害虫

ウリミバエ、ミカンコミバエ種群、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ

東京都がマーク表示実施

～遺伝子組換え食品で、製造、輸入、販売業者などがマーク表示～

遺伝子組換え食品の表示については、平成13年4月からJAS法に基づく表示の義務化、並びに食品衛生法に基づく表示の義務化が実施されているが、消費者からは「表示が小さくて見えにくいいため分かりやすい表示をしてほしい」との要望が寄せられていた。

適用範囲は遺伝子組換えに関する表示のある食品で、冷凍トウモロコシや納豆など24品目。図のように、「不分別」「非組換え」の区分に従い、見えやすい場所に見やすい大きさと表示するものとする。マークの色は限定しているわけではないが、基本となるのは、中心円が緑色に白い文字、外周円はグレーに該当する箇所が黒色。該当する場所を示す三角印が赤い色となっている。

都が決めたマーク



平成12年度におけるきのこ類の生産動向について（林野庁経営課発表）

区分	生産量 (t)	対前年比増減率 (%)	生産額 (億円)	対前年比増減率 (%)	主要生産都道府県	概況
乾しいたけ	5,236	-6.2	131	14.5	大分、宮崎、岩手、愛媛、栃木	天候不順等により生産量が減少し、価格が上昇したことから生産額は増加
生しいたけ	67,224	-4.7	694	-8.2	群馬、北海道、岩手、茨城、徳島	輸入増加による価格低下から生産量、生産額ともに減少
なめこ	24,942	-3.2	118	-3.4	長野、山形、群馬、新潟、北海道	需要の減等により生産量、生産額ともに減少
えのきだけ	109,510	-3.7	384	0.6	長野、新潟、福岡、北海道、大分	主産地が生産調整を行ったことから生産量は減少し、価格の上昇により生産額は微増
ひらたけ	8,546	-14.1	37	-15.4	岐阜、群馬、新潟、山形、三重	需要の減等により生産量、生産額ともに減少
ぶなしめじ	82,414	-2.3	446	-3.5	長野、福岡、新潟、香川、北海道	主産地が生産調整を行ったことから生産量は減少し、価格が前年並みで生産額は減少
まいたけ	38,998	-2.5	298	-9.7	新潟、群馬、栃木、北海道、岐阜	価格の低下により生産額は減少
まつたけ	181	23.3	67	20.3	広島、長野、岩手、岡山、山口	天候等の条件が良好のため、生産量、生産額ともに増加
その他	7,547	21.7	60	25.5		エリンギ、たもぎたけ、きくらげ等
計			2,236	-3.4		

コメント1 きこの類の生産量は生しいたけ、えのき、ぶなしめじなど主力品目の減少となり、生産額も2,236億円と前年に比べ3.4%の減となった。

コメント2 生しいたけの輸入量は、42,057トンと対前年比33%の増加となった。なお、13年に1月以降も輸入量が増加したこと等から、4月23日にセーフガード暫定措置を発動した。乾しいたけの輸入量は9,144トンと前年とほぼ横ばいとなった。

1 乾しいたけの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	6,886	5,786	5,552	5,582	5,236
輸入量	7,206	9,400	9,048	9,146	9,144
輸出量	516	280	214	156	115
消費量	13,573	14,906	14,386	14,572	14,265
輸入比率	53%	63%	63%	63%	64%

6 まつたけの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	359	272	247	147	181
輸入量	2,703	3,059	3,248	2,674	3,452
輸出量	0	0	0	0	0
消費量	3,062	3,331	3,495	2,821	3,633
輸入比率	88%	92%	93%	95%	95%

2 生しいたけの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	75,157	74,782	74,217	70,511	67,224
輸入量	24,394	26,028	31,396	31,268	42,057
消費量	99,551	100,810	105,613	102,139	109,281
輸入比率	25%	26%	30%	31%	38%

7 たけこの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	53,083	48,593	41,176	38,053	35,596
輸入量	298,094	266,014	255,896	271,222	285,416
輸出量	0	0	0	0	0
消費量	351,177	314,607	297,072	309,275	321,011
輸入比率	85%	85%	86%	88%	89%

3 ひらたけの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	14,369	13,243	11,731	84,330	82,414
消費量	14,369	13,243	11,731	84,330	82,414

8 木炭の需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	66,611	61,170	58,955	66,946	56,456
輸入量	98,998	105,249	103,443	117,797	129,440
輸出量	131	117	110	123	49
消費量	165,478	166,302	162,288	184,620	185,847
輸入比率	60%	63%	64%	64%	70%

4 ぶなしめじの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	66,657	72,024	78,655	84,330	82,414
消費量	66,657	72,024	78,655	84,330	82,414

5 まいたけの需給表

区分	8年	9年	10年	11年	12年
生産量 (t)	27,307	31,135	36,850	39,996	38,998
消費量	27,307	31,135	36,850	39,996	38,998